

あなたへの「聖書メッセージ」

【 すべてのことを 益に 】

今年（2015 年）の 阿武山福音自由教会の「年間聖句」は、「ローマ人への手紙」8 章 28 節のみことばです。

「神を愛する人々のためには、神がすべてのことを働かせて 益としてくださる。」

聖書に記されている言葉の通りに言ってみますと、
「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて 益としてくださることを、私たちは知っています。」

主なる神さまは、すべてのことを益に導いてくださるという、真実（アーメン）であられる主なる神さまの、確実で・ゆるぐことのない約束です。

「神を愛する人々」に対する、主なる神さまの約束です。

「神を愛する人々」とは、あなたや私のことですよネ。

「神のご計画に従って召された人々」というのも、これも あなたや私のことですよネ。

主なる神を信じる私たちのためには、「すべてのことを働かせて 益としてくださる」という 神さまの約束ですが、「**すべてのこと**」とは、一体 何のことでしょうか。

神さまが働きかけてくださらなかったら、決して 益とはならなかったような「すべてのこと」のことです。

そのような「すべてのこと」も、神さまが働きかけてくださって、そのことさえ、「益としてくださる」・すべてのことを「益に変えていってください」—— というのです。

そして、そのことを、「私たちは、知っています」と言っていますよ。

神がすべてのことを働かせて 益としてくださることを「私たちは知っています」・「経験しています」・「そのことを証詞することが出来ます」—— と、聖書のみことばは言っているのですが、皆さん、「アーメン」でしょうか。その通りでしょうか。 感謝します。

神さまが働いてくださらなければ、益になんてならなかったような「すべてのこと」について、みてみましょう。

「あなたがたは、世にあっては 患難があります。」

「ヨハネの福音書」の 16 章 33 節のみことばです。

経験したくはないことですが、「**患難**」があります。

そして、「詩篇」107 篇の 6 節・13 節・19 節・28 節に、4 回も繰り返し記されているみことば

「この苦しみの時に、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救い出された。」

これも、経験したくはないことですが、「**苦しみ・苦悩**」があります。「**苦難**」という言葉もあります。

そして、私たちが 毎日のように祈っています「主の祈り」の中の祈り

「私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。」

試みる者・悪い者・サタン・悪魔からの「**試み・誘惑**」があります。

「**患難**」 「**苦しみ・苦難**」 そして、少し意味あいが違いますが「**誘惑**」。

どれも、すすんで経験したいことではありませんが、しかし、これらのことは起こってきます。

残念ながら、そのために備えることは出来ても、避けることは出来ません。

でも、どうしてこのようなことが、次々と起こるのでしょうか？

主なる神さまが、天地を創造され、私たち人間をも創造されたのではなかったのでしょうか。

なぜ？ どうしてですか？

多数のシリア難民が、生命を失うことまでして、安住の場所を求めて、さまよっています。生命を落としていっています。流入してくる国々でも、受け入れることは、簡単には出来ません。

又、イスラム過激派が台頭してきて、やりたい放題の破壊や殺戮（さつりく）を繰り返し、多くの人たちが標的にされ、おびえながら生活しています。

又、北朝鮮の国家による犯罪で拉致されていった 横田めぐみさん達の救出・拉致問題の解決も、全然進んでいってはいません。

それどころか、北朝鮮では、金正恩（キムジョンウン）による恐怖政治・独裁政治が、ますます強化されていっています。側近の者たちまでも容赦なく、粛清されていっています。

又、東日本大震災、さらにその後も次々続いている自然災害。

福島原発などの人災被害にも、その復興は遅々として、なかなか進んでいってはいません。

神さま。どうしてなんですか。

神さまは、何をなさっているんですか。

なぜ、こんなことが起こり、見過ごしにされているんですか！

—— と、皆さんは おっしゃるでしょうか。

でも、それは、的はずれな言い分です。

これら、すべてのことの責任者は、主なる神さまではありません。

これらのことを、主なる神さまが起こされているわけではありません。

これらすべてのことを見て、逐一、知ってはおられますが、これらすべてのことを 神さまが起こされているわけではありません。

そうは言っても、主なる神さまが、天地を創造され、私たち人間をも創造されたんでしょう？

—— そうです。その通りです。

そうしたら、天地創造・人間創造を、神さまは失敗されたんですか？

—— いいえ。そうではありません。

全知・全能・全愛の限りを尽くして、一つ一つを、時間をかけて、7日間もかけて、完璧に造られましたよ。

「創世記」1章31節。

「神はお造りになった すべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第6日。

こうして、天と地と そのすべての万象が完成された。神は 第7日目に、なさっていたわざの完成を告げられた。」

天地創造のわざ・人間創造のわざは、非常に良かった。主なる神さま自身、満足を覚えられるほどの形で、完璧になされました。

人間は、神に似せて、神のかたちに造られた者として、主なる神さまとは、あたかも親しい友だちであるかのような、親密な関係でした。

そして、心の自由・魂の自由を楽しむような、すばらしい状態だったのです。

ところがです。

最初に造られた人間である アダムとエバは、主なる神から警告されていました。

「あなたは、エデンの園にある どの木からでも、思いのまま食べてよい。しかし、**善悪の知識の木**からは、取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

そのように、主なる神さまから、警告されていました。

結果は どうだったのでしょうか。

蛇をあやつって、しかけてきた悪魔・サタン・元、力ある天使だった悪魔の巧妙な誘惑に無防備になり、おいしそうだし・キレイだし・いろんなことを知って賢くなれそうだし・・・・ というわけで、主なる神さまの命令に反して、悪魔・サタンの言葉に従って、その実を取って、夫婦して食べました。

そして、結果は、善だけでなく、悪を知る者・悪を経験する者・悪を愛する者となってしまったのです！！

そして、神の警告通りになりました。永遠のいのちを持って生きる者として創造された人間でしたのに、「必ず死ぬ者・罪惡に対するさばきを受ける者」となってしまったのです。

根原の罪・「**原罪**」と言われます。

創造時点では、祝福いっぱいだった人間や自然界でしたのに、事態は一変してしまいました。

女性にとって喜びだった出産でしたが、うめきと苦しみの中に 子どもを産まなければならなくなりました。

対等だった夫と妻の関係が、夫が支配するという イビツな関係になってしまいました。

土地や自然は、人の原罪のゆえに、呪われたものとなってしまいました。

労働は、苦しみとなりました。必要な食べ物や収入を確保するために、汗を流し、苦しみがら、働かなければならなくなりました。

そして、ついには、死とさばきが待っている というような者となってしまったのです。

自然界も、創造の時の姿が損なわれてしまいました。

創造時点には考えられなかった、地震・津波・台風・洪水・竜巻・病虫害・弱肉強食・干ばつ……等々々 が起こるようなものになってしまいました。

人間の原罪のゆえに、被造物全体が、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。

私たち人間も、原罪のゆえに、大変なことになってしまいました。

罪と悪を知る者、罪と悪を受け入れ・愛する者となってしまったのですから、その結果、罪・原罪が 私たちに内住するもの、私たちの心・魂の内に住み込んでしまうものとなり、不品行・汚れ・好色・偶像礼拝・魔術・敵意・争い・そねみ・憤り・党派心・分裂・分派・ねたみ・酩酊、酒に酔っぱらうこと・遊興、度を越えた 罪に汚れた遊びごと、野球賭博のようなこと・そういった類（たぐい）のものが、社会にも・個人にも影響を与え、支配するものとなってしまいました。

このような トンデモない世界になってしまったのは、出発は、最初に造られた人間である、アダムとエバが、原罪を犯したためだったのです。

いつか、天国に行った時には、アダムさんとエバさんを見つけ出して、
「あなた方が原罪を犯したために、古今東西、世界中の人たちが、自然も含めて、どれほどの患難・苦難を味わってきたのか、ご存知なんですか！」
と、文句を言いたいくらいですよネ。

でも、二人のせいだけにするわけには いきません。

私たちも、人間創造の時から与えられている「良心」を通して、神さまが語りかけ・導いてこられたのに、「良心の^{かしゃく}呵責」を覚えるようなことを、良心を無視し・良心に反発して、むしろ 反対のことをするのを喜びとしながら、創造主^{しゅ}であられる 主なる神に逆らってきたのです。

アダムとエバだけではなく、私たち一人一人も、同罪です。

主なる神さまに対して、罪を犯し続けている ^{つみびと}罪人 です。

このような トンデモない世界になっていることの原因は、あなた自身・私自身でもあるのです。あなたにも、私にも、責任があるのです。ひとごとのように、ひとのせい にすることは出来ません。

というわけで、聖書が、はっきりと言っていますように、世にあっては、この世界を生きていく間には、クリスチャンであっても・なくっても、同じように、**患難**があります。

そのために、いろいろ備えをすることは大切ですが、残念ながら避けることは出来ません。

ちょうど、主なる神が、クリスチャンであっても・クリスチャンでなくても、同じように 太陽を上らせ、正しい人にも 正しくない人にも、同じように 雨を降らせ、実りの季節を与え、食べ物と喜びをもって、私たちの心を満たしてくださっている、そのように創造のわざをなさったのと同じです。

世にあっては、私たちが生きていく間には、さまざまな患難があります。覚悟をしておかなくてはなりません。備えをしておかなくてはなりません。

そして、それらの患難を経験する中で、私たちは、**苦しみ・苦悩・苦難** を経験していくことになります。

本当の本当に、「生きていく」ということは、なかなか大変なことですよ。

だれもが、種類は違っても、さまざまな患難・苦難を経験していくのですが、ここで、クリスチャンと・そうでない人との間には、はっきりと、違いが出てきます。

「神を愛する人々」「神に召された人々」と、

反対に、「天地創造の神なんて、誰が信じるか！」「イエス・キリストが神であって・私の救い主だなんて、誰が信じるか！」などという人々との間では、**決定的な差**が出てきます。

そうではない人たちは、主なる神なんて もともと信じないわけですから、こうしたさまざまな患難・苦難に対しては、自分自身でなんとかして対処・対応していかななくてはなりません。これは、あたり前のことですよ。

あるいは、日頃信じているという**神仏**・かみほとけに、なんとかしてもらうしか仕方がありません。

本当に、そこに答えがあるのでしたら、そうされたいのですが、納得出来るような、原因や結果、あるいは どのように考え・どのように対応していったらいいのか、その答えを見い出すことは、出来ないことでしょう。

仕方がありません。あきらめて、“人生とは こういうものなんだ” と、自分自身を納得させるしかありません。そのように**悟る**しか、仕方がありません。

一方、「神を愛する人々・神に召された私たち」の場合は、どうなのでしょう。

「神がすべてのことを働かせて、益としてくださる」 と、はっきりと約束してくださっています。

父・子・聖霊、全能・全愛の神さまが、神を愛する人達を、そのままにしておかれるはずがありません。

神は愛なり。神は、愛そのものであられるお方です。

父・子・聖霊、三位一体の主なる神さまが、総がかりで、患難・苦難の中にある私たちに対して、それらのことに働きかけて・介入してくださって、万事を益としてくださいます。益に変えてくださいます。私たちが、感謝出来るものへと導いてくださいます。

これが、**主なる神さまの約束**です。

8 章 26 節をご覧ください。

信じる私たち一人一人に内住しておってくださる、助け主・聖霊なる神が、弱い私たちを助けてくださいます。—— とあります。

27 節をご覧ください。

私たち聖徒のために、とりなしをしてくださっています。

聖霊なる神だけではありませんよ。**34 節**をご覧ください。

今や、父なる神が着座されている、その右の座に着座されている 子なる神、キリスト・イエスさまも、信じる私たちのために とりなしをしておってくださいます。

父なる神はどうなのでしょう、**30 節**をご覧ください。

私たちを召し、義と認め（信仰義認ですよネ）、さらに栄光を与えてくださっています。—— そのように記されています。

そして、**31 節**をご覧ください。

このような、父・子・聖霊、三位一体の、全知・全能・全愛の、主なる神が、「私たちの味方である！」というのです。**神が私たちの味方である！**

そして、**35 節**。

このような私たちを、キリストの愛・神の愛から引き離すのは、誰ですか。何ですか。

患難ですか。苦しみですか。迫害ですか。飢えですか。裸にされてムチ打たれることですか。

危険ですか。剣^{つるぎ}ですか。

そして、**37 節**。

私たちは、私たちを愛してくださっているお方、父・子・聖霊、主なる神によって、これらすべてのこと、すべての患難・すべての苦しみにあっても、圧倒的な勝利者となるのです。—— と記されています。

そして、**28 節**にもどりますと、

以上のようなことを、私たちは知っています。経験しています。証^{あかし}詞することが出来ます。—— と言っているのですが、皆さん、アーメンでしょうか。その通りでしょうか。感謝します。

同じ「ローマ^{ひと}人への手紙」ですが、少し 前にもどって、5 章を開いてみてください。

5 章 3 節に、ビックリするような言葉が記されていますよ。

信仰に導き入れられた私たちは、「患難^{ひと}さえも、喜んでいます。」

神を愛するクリスチャンは、自分から進んでは願わないことだけれど、あってほしくないことだけれど、やむなく経験することになる「患難」さえも喜んでいます。

どうしてですか？

「神は、すべてのことを働かせて、益としてくださる」んでしたよね。

「患難」をさえ、神は私たちを、練り上げる時・「試練」の時・私たちを成長させる時・ととのえる時としてくださるのです。

患難が、忍耐を生み出していきます。

そして、その忍耐が、今度は 練られた品性を生み出していってくれます。

そして、その練られた品性が、今度は 私たちに、永遠に続いていく「希望」を生み出していってくれます。希望をもって生きていく者へと導いていってくださいます。

そして、これらのことは、私たちに与えられた、内住しておってくださる、ご聖霊によって、主なる神さまの愛が 私たちの心に注がれていることを、しっかりと認識させ、実感させてくれます。

患難・苦難を経験しているはずなのに、神さまの愛が、私たちに注がれている —— というこ

とを実感させてくれます。

主なる神さまが、私たちを、この私を、限りない愛をもって愛しておってくださるのだ。神さまが、私たちの味方であるのだ —— ということを、しっかりと認識させ、実感させてください。感謝です。

そして、更に感謝なことに、これで終わりではありませんよ。

「コリント^{ひと}人への手紙 第二」の 1 章を開いてみてください。

1 章の 3 節から 5 節までのみことばは、まさに、慰めにみちた みことばになっています。

3 節「私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神が、ほめたたえられますように。」

4 節「神は、どのような苦しみの時にも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも 慰めることが出来るのです。」

5 節「それは、私たちに、キリストの苦難があふれているように、慰めもまた、キリストによってあふれているからです。」 アーメン

こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも、慰めることが出来るのです。

患難から苦しみ、そして、神から受ける慰めへ。そして、次には、このことを経験した私たちが、今度は、同じような苦しみの中にいる人たちのところにつかわされ、用いられていく —— というのです。

今年（2015 年）の阿武山福音自由教会の 年間聖句。

「ローマ人への手紙」 8 章 28 節の みことば。

「神を愛する人々のためには、神がすべてのことを働かせて、益としてくださる。」

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて、益としてくださることを、私たちは知っています。」

患難はあります。

苦しみ・苦難を経験します。

しかし、神がすべてのことを働かせて、益としてくださる
—— という、主なる神さまの、確固たる・ゆるぐことのない約束です。

患難は、忍耐 — 練られた品性 — 希望 を生み出してしてくれます。

患難は、私たちを 練り上げ・成長させ・ととのえる時として、主なる神は、私たちを益に導いていてくださいます。

患難は、主なる神さまから、私たちが慰めをいただく時としてくださいます。

そして、その慰めの経験を用いて、他の人たちへの 愛の証し^{ひと}人となるようにと、導いていてくださいます。

「コリント人への手紙 第一」15章58節 のみことばです。

「私の愛する兄弟姉妹たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。
あなたがたは、自分たちの労苦が、主にあって **むだでない** ことを知っているのですから。」
主にあって、ムダではない。

たとえ、大変だ・苦しいと思うようなことがあっても、主にあって、ムダな経験は一つもない。
—— と、神さまは おっしゃっていますよ。

福音歌手・森祐理さんが、テレビの番組「ライフライン」で おっしゃっていた証詞^{あかし}のことばです。

「いろんなことがありました。声が出なくなって、歌が歌えなくなってしまいました。仕事を続けていくことが出来なくなってしまいました。

神戸大震災では、弟を亡くしてしまいました。つらかったです。そのほかにも、いろんなことがありました。

でも、その時々は大変だったのですが、主なる神さまは、すべてのことを『恵み』に変えてくださいました。」

主なる神さまは、すべてのことを『恵み』に変えてくださいました。

お祈りをいたしましょう。

「神を愛する人々のためには、神が すべてのことを働かせて、益としてくださる。」

父・子・聖霊、主なる神さま。この約束のみことばを、ありがとうございます。

いろいろな事柄を通して、この約束のみことば通りであることを、私たちに体験させていってください。

すべてのことを 益にしてくださいました。

すべてのことを「恵み」に変えてくださいました。—— と、主なる神さまに、感謝をささげる者とさせていってください。

私たちの神、私たちの主、イエス・キリストの御名^{みな}によって、お祈りします。

アーメン

